

スキマタイムズ

もっとお互いを理解するための場や時間を

日本自立生活センター自立支援事業所 2022年9月27日発行 第138号



事業所の前に介助者募集の看板を設置しました。
立ち寄られた際にはぜひご覧ください。
また、看板の写真を撮るなどして介助者募集の宣伝にご協力いただけるとありがたいです。よろしくお願いたします！

JCIL の介助者募集のページはこちら→



介助者
募集中だよ～

SNS 等での拡散も
ぜひよろしくです！



職員自己紹介

- ① なまえ ② JCIL との関わりはいつから？
- ③ きっかけは？ ④ どんな仕事をしていますか？
- ⑤ 大切にしていること・これからしたいこと

- ① 酒井 佑介（さかい ゆうすけ）
- ② 2020 年の 10 月頃から働きはじめて、この 8 月から職員になりました。
- ③ うろ覚えなのですが…たしか(渡邊)琢さんの本を手にとった際に、巻末の著者略歴を見て、そこに「日本自立生活センター」の文字列を見つけたのが最初だったような。
- ④ 介助してます！——でも介助って、何なんでしょう？？ 何をしていることになるんでしょう？ 「介助する」には「介助される」必要もあるわけで。もっと長い、ながーいスパンで捉えたときに、私たちが日々介助し合っているときに何を作り上げていることになるかは、全く自明ではないと思います。
- ⑤ 死を信じないこと。身体を信じること。いまここから 100 億年後の宇宙、100 億年後の私(たち)のことを考えて、毎日生きること。
人間がこれまでに作り上げてきた、あらゆる既成の概念や常識をすべて根本から作り変えたいです。



8/30(火)
居場所づくり勉強会 第70弾

東京電力が起こした 原発事故は終わっていません！

報告と感想

ハルキ ハルコ

福島から京都に避難され、今年の4月から JCIL で介助者として働かれている菅野さんの話をお聞きました。

2011.3.11 の地震発生時、菅野さんはこどもさんの小学校にいて先生と面談されていて「大人でも何人かで腕を組んで踏ん張っていないと飛ばされてしまうような大きな揺れで……」と被災直後からのことを淡々と力強くお話してくださった。

学校からのお手紙に原発事故由来の放射線物質からの汚染は「問題ない、大丈夫」と書いてあること、でも「長袖を着させて、マスクもつけて、登校したら手を洗わせてうがいもさせる。家に帰ったときもそうするように」とも書いてあること。

大丈夫なのか、問題ないのか、気をつけるべきなのか……。矛盾したことが書いてある。正しい情報を知らされない。

そんな生活の中で菅野さんは、自分で情報を集めて、自分で考えて行動するしかない。と思い、まず保養キャンプで京都に来られ避難先を探し始められた。

避難先を探す中、東日本と西日本では食の流通が別れているので、放射性物質での汚染の心配が少ない西日本でと思ったこと、もしまた原発事故があったとき陸続きで避難できることを考えたこと、いろんな場所が候補にあがったが、やむなく避難する選択をただけで故郷を離れたいわけでないこと。

京都に避難を決め、2011 年の夏に母子避難をし、パートナーが夜行バスで京都に通う日々。会えるとうれしい、帰るとき寂しくてつらい。「この原発事故で家族を壊されてたまるのか」という決意でパートナーの方にもこどもさんたちにも「我慢しないこと、寂しかったら寂しいと言う。恥ずかしいと思わず言葉にすること」と言ったこと。

裁判の原告に家族全員がなり、裁判中には家業のこと、家族のこと、事細かに聞かれ「京都に来てみたら、いいところだったから住むことにしたんでしょ」と裁判で言われたこと。

裁判の前には「嘘をつきません」という書面に署名をさせられる。そうして証言する。

なぜ私が？こちら側が？と思うこと。

終始、今もお闘っている人の強い決意を感じるお話ぶりだった。腹にグッと力が入ったお声だった。

裁判のところの話を聞いて、水俣の話を思い出した。「水俣病だというなら、その証拠に 60 年前に買って食べた魚の領収書」を出せと言う行政。責任を取らない企業。

水俣の話聞いても、異性介助の話聞いても、福島の話聞いても
みぞおちの辺りが焼けこげたように痛い。痛い痛い泣いてばかり
何もできない、何もできなかった、何もしてこなかったと泣いてばかり
感じないように蓋をして、仕事をする晩ごはんを食べるバイクに乗る
裏を返せば私は蓋をしてしまえる。生きることを選んで日々を楽しんでよいのかわからなくなる。
フードをかぶってもう隠れてしまいたくなる。

当事者は闘っている。わたしは？

私は何の当事者だ



あらかぶさんを支える会



福島原発被ばく労災 損害賠償裁判を支える会

〒136-0071 東京都江東区亀戸7-10-1 Zビル5階
東京労働安全衛生センター気付
電話：090-6477-9358 (中村)
E-MAIL: info@hibakurodo.net
HP: <https://sites.google.com/site/arakabushien/>

あらかぶさんの訴え

私は福岡県北九州市在住です。17歳から鍛冶職人として働いてきました。東日本大震災の時は36歳でした。本当に大変なことが起きたと、東北の人達状況に胸が痛みました。

そんな折、福島第一原発事故の収束作業を手伝わないかと声をかけられました。私には妻と、当時7歳・5歳・2歳の3人の子供がおり、健康が心配だから行かないでほしいと言われました。それでも東北・福島の人達の役に立てるなら、自分の溶接の技術が役に立つなら、と仲間を集め福島に向かいました。

原発事故の作業現場では、まずその管理のずさんさに驚きました。例えば、最初に従事した福島第二原発の工事では、現場監督の線量計が鳴っているのに「大丈夫、大丈夫」と言って、アラームを解除するなどしていました。

また、福島第一原発4号機のカバーリング工事では、鉛ベストが人数分ない状況でした。監督は「着らなくてもこっそり入れ」と言って私たちに作業させました。鉛ベストは、着れてもボロボロでした。

ある時、私たちに払われるべき危険手当が、真っ当に払われていないことがわかりました。一緒に来てもらった仲間への責任もあり、「こんなじゃ、やっておれん」と2013年12月、北九州へ引き上げました。その少し前から、熱が続き咳が出る、風邪のような症状に悩まされていました。年明けに電離健診を受けたところ白血病と言われ、目の前が真っ暗

になりました。それから、一時は生死を彷徨い、とても長く辛い治療に耐えて、なんとか寛解に至りました。

私がこの裁判を起こした理由は、東電に自らの責任としっかり向き合って欲しいからです。事故を収束させたい一心で働く私たちの思いに応えるような労働環境を用意するどころか、使い捨てにするような扱いは許しません。他の作業員のためにも、裁判に勝って道を開きたいのです。

あらかぶさんの就いた仕事

- 2011.10.17～2012.1.15 東電 福島第二原発
1-3号機(停止中)建屋の津波対策工事(元請:鹿島建設)
4号機原子炉建屋耐震強化及び関連工事(元請:清水建設)
被ばく線量0.00mSv
- 2012.1.17～2012.3.22 九電 玄海原発
4号機定期検査(元請:三菱重工) 線量4.10mSv
- 2012.10.4～2013.11.30 東電 福島第一原発
4号機原子炉建屋カバーリング工事
(元請:竹中工務店・鹿島・清水・西松・竹中土木JV)
雑固体廃棄物焼却施設建屋他設置工事(元請:鹿島)
3号機原子炉建屋カバーリング工事(元請:鹿島)
被ばく線量記録15.68mSv ...計327日 19.78mSv

福島原発被ばく労災損害賠償裁判

あらかぶさん裁判

を支えて下さい



福島第一原発収束作業などで被ばくし、急性骨髄性白血病になってしまったあらかぶさん。「子ども達を置いて死ぬかもしれない」との不安から、うつ病も発症しました。2015年、事故収束作業に伴う白血病発症では初となる労災が認められました。しかし「当社はコメントする立場がない」と、見舞いのひと言すらない東京電力。2016年、あらかぶさんは裁判に立ち上がりました。

第30回 東九条 口馬丹 (ひろば)

入場
無料

10月
30日
(日)

いこか
つくる
かみん
なの
まつい

和太鼓
&
サムルノリ
사물놀이

판물놀이
풍물놀이

마당극
의도自慢

各種展示 ほか

楽しいコーナー・
プログラムが
もいたくさん
おまつい

体験コーナー

会場：
元・陶化
小学校

会場内の新型コロナウイルス
感染対策にご協力ください。
水分補給以外の飲食は禁止しています。

正午～
午後3時半

(雨天の場合は
11月3日(木)に延期)

主催：東九条마당(マダン)実行委員会 協賛：凌風学園PTA
後援：京都府・京都市・京都府教育委員会・京都市教育委員会
お問合せ：〒601-8013 京都市南区東九条南河原町3 TEL 075-661-3264 FAX 075-661-3294
URL <https://www.h-madang.com> MAIL hkm@h-madang.com

新型コロナウイルスの感染状況により、開催方法の変更や中止となる場合があります。

自転車・バイクでのご来場はご遠慮ください。ご来場には市バス・地下鉄をご利用ください。

